

ペレットストーブPE-6CT 工事説明書

設置工事の前に、この工事説明書をよくお読みの上、正しく据付けてください。
なお、この工事説明書は、工事終了後に取扱説明書と一緒に必ずお客様にお渡しください。

地域によっては条例により設置できない場合があります。
弊社までご相談ください。

本機は、木製脚を取り付けてのご使用はできません。

安全のために必ずお守りください

●ここに示した事項は、**警告**、**注意**に区分しています。

- 警告** この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
- 注意** この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●イラスト(まんが)の横にある**禁止**マークは「禁止」、**指示**マークは「指示」、**注意**マークは「注意」を表しています。

警告

★据付け移設は、販売店または据付業者がおこなってください。

お客様ご自身で据付けや移設をされ、不備があると感電や火災の原因になります。

指示

★屋内給排気及び床下給排気禁止

屋内または床下に排気すると、排ガスが室内に漏れて危険です。必ず屋外に排気してください。

禁止

警告

★据付けは火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準を守ってください。

指示

★給排気用トップは閉そくしない場所に設置してください。

積雪の多いときに給排気用トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。また、板などによる「雪阻い」は給排気の妨げになるのでおやめください。運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

指示

★給排気管を確実に接続

給排気管を確実に接続し、しっかりと固定してください。風、振動、衝撃などで外れたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

指示

警告

★可燃物との距離を離す

ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにしてください。

標準立上セットの場合

※排気管の半徑以上

注意

★次の場所には据付けない。

- 火災や予想しない事故の原因になります。
- 付近に燃えやすいものがある場所。
- 階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所。
- マントルピース内など。
- 特殊な壁(内部に通気層があるものなど)を使用している場所。
- 小さな子供が触れるような場所や、通路、人通りの激しい場所は避ける。
- 温室、飼育室など人のいない場所。
- 水平でない場所、不安定な場所。
- 不安定な物をせた棚などの下。
- 可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所。

使用禁止

※高地(標高800m以上)では酸素濃度が薄いため異常燃焼を起こすおそれがあります。標高800m以上で使用する場合は販売店または弊社までお問い合わせください。

★可燃物との距離を離す

ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにしてください。

標準立上セットの場合

※排気管の半徑以上

注意

★給排気管および給排気用トップの点検

据付けが終わったら、もう一度点検してください。次のような取付けは、危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがあるので、必ず修正してください。

★指はさみガードの取り付けの確認

指はさみガードを必ず取り付けてください。指はさみガードを取り付けないと、燃焼室扉開閉時に指をはさみ込むおそれがあります。

確認

可燃物近接禁止 **接続部は正しく接続されていること** **3m 3曲がり以下のごと** **給排気用トップ付近の危険物近接禁止**

下り勾配のごと **給排気用トップと開口部(窓など)との距離が離れていること** **トップ先端の障害物禁止**

1 開こん

- 包装状態から製品を傷つけないように取り出し、包装材などを取り除いてください。
- 燃焼室内にある燃焼バーナーを固定している包装材も取り除いて下さい。
- 本体は3kg、燃焼室扉は3kgありますので、必ず二人以上で作業をしてください。
- 工場出荷時に燃焼試験をおこなっているため、バーナーや燃焼室内が一部変色したりしている場合がありますが、異常ではありません。
- その他お使いになる前に製品の輸送中に生じた小ねじのゆるみやはずれなどがないかを調べてください。

付属品の確認

●開こんが終わりましたら、次の付属品がそろっていることを確認してください。

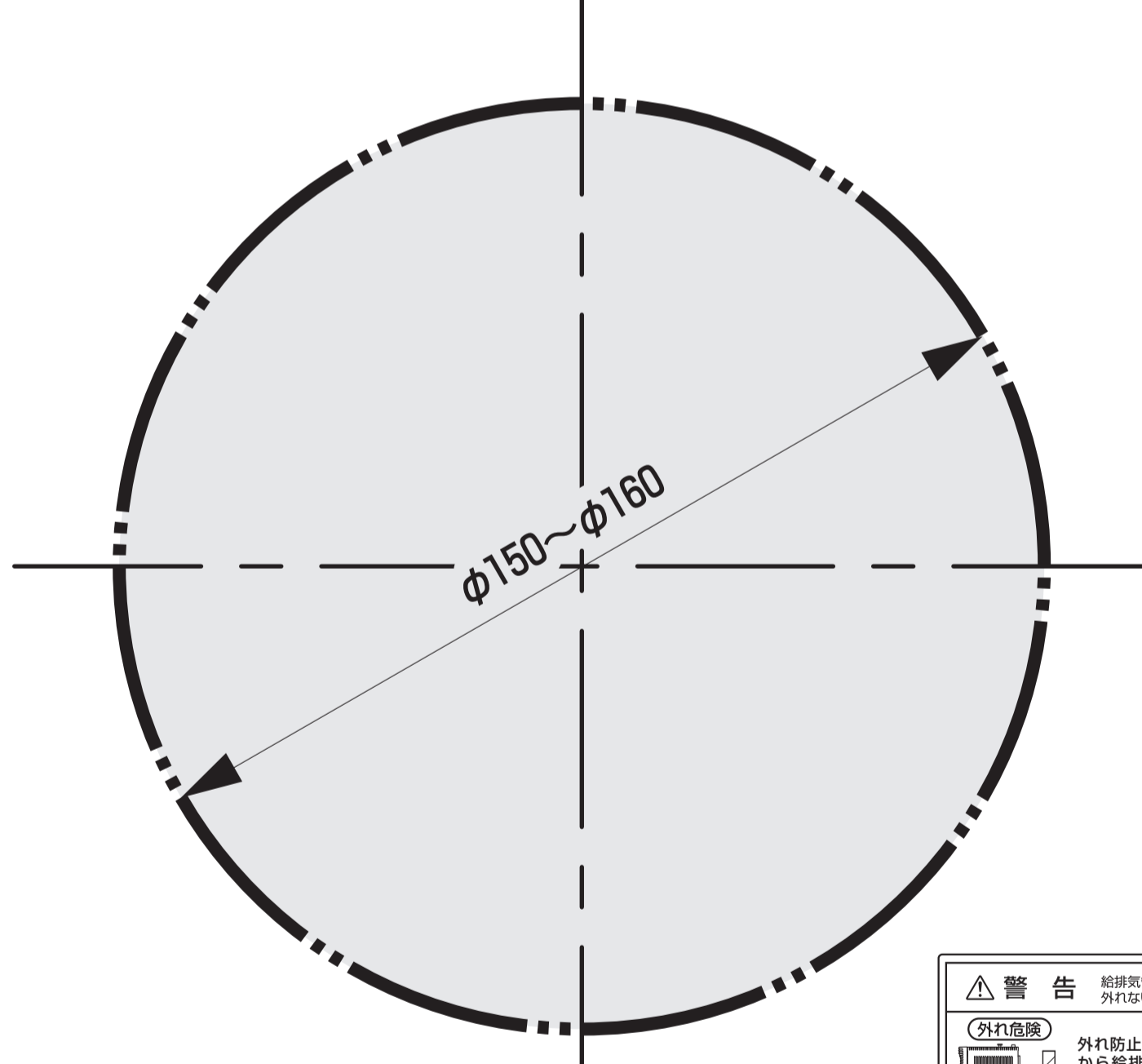
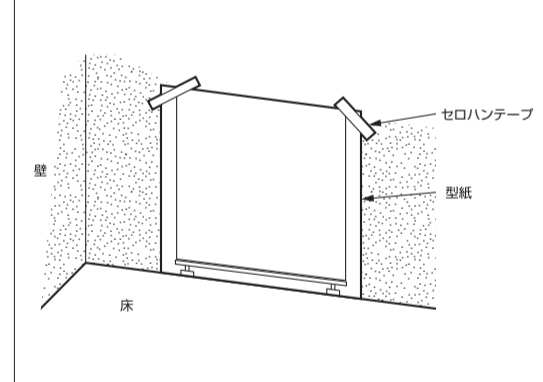
燃焼室扉 梱包内容	燃料タンク 収納内容
燃焼室扉 1個 指はさみガード 2個 ネジ2本 (ワッシャー付)	試運転用 ペレット燃料 1kg 燃焼室扉 ハンドル 1個

528507115

K-08

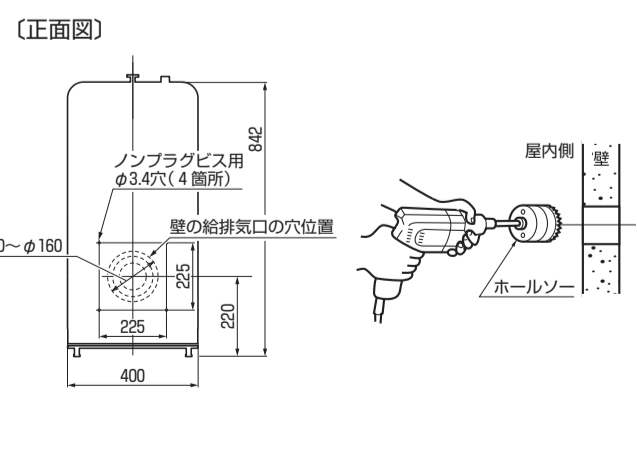
型紙のご使用方法

1. 型紙の床面を床に合わせて壁に貼り付ける。
2. 給排気管穴位置に印をつけてください。



給排気管およびトップの取付け

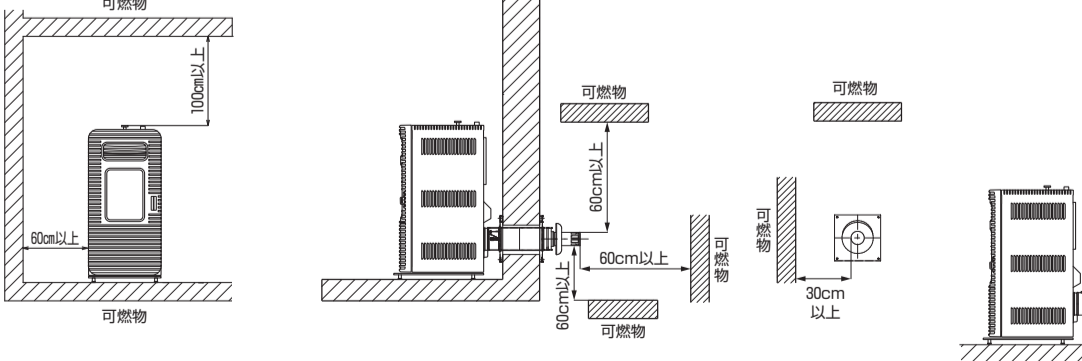
- お願い**
- 壁内の鉄筋、鉄骨・電気配線・水道の配管を充分考慮してください。
 - 標準セットの対応壁厚は110～200mmです。
 - さらに別売部品を使用することで壁の厚さは450mmまで対応可能です。110mm未満、または200mm以上450mm以下の場合は弊社へご相談ください。
 - 取付けの際はケガをしないように手袋をはめておこなってください。
- 給排気管およびトップの取付け、本体の固定方法は、本紙を良くお読みください。**
- 設置場所を決めてください。
 - 給排気管を通す壁の穴位置を決めてください。
 - 屋外立ち上げおよび直抜きで機器背面から直接背面側の壁穴を通す場合は、本紙の型紙を使用して穴位置を決めてください。
 - 壁に壁貫通部材取付用の穴(φ150～φ160)を水平にあけてください。



ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにしてください。

(標準給排気トップ(直抜き)セットの場合) (標準立上セットの場合)

※給排気用トップ位置は排ガスに含まれる煤影響も考慮して取り付けてください。



警告

外れ危険

給排気管および接続配管が外れおそれがあります。機器本体から給排気管までのすべての配管接続部をねじ等で固定してください。配管が外れると排ガスが漏れて危険です。

2 据付け

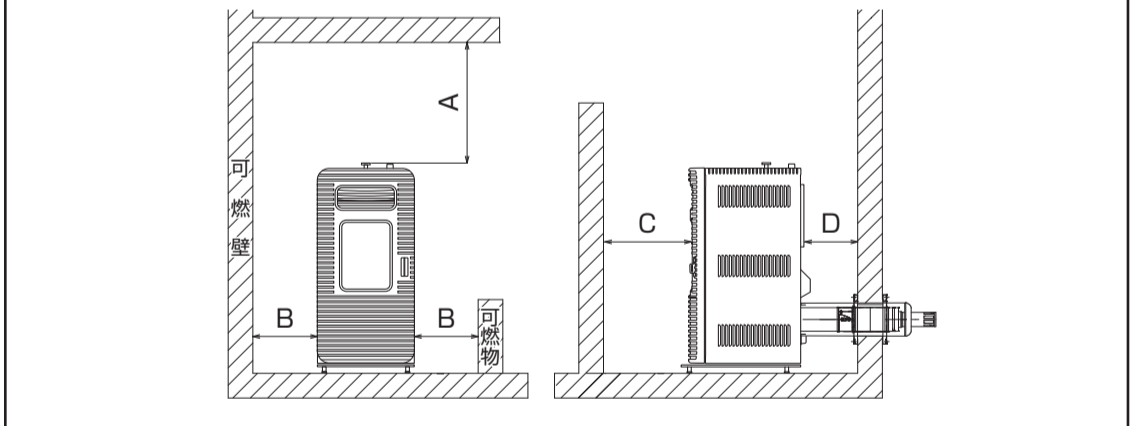
据付け場所の選定

- ストーブを据付ける床面は強い振動や衝撃がなく、ストーブの重量に充分耐え、安定していることが必要です。また、ストーブの下に別売の炉台(フロアプレート)を敷くことで重さは分散されますが、必要に応じて床面の補強をおこなってください。(燃料満時重量約112kg)
- ストーブは水平になるように置いてください。ストーブが水平でない、異常燃焼や、対震自動消火装置の誤作動の原因になることがあります。
- ストーブは冷気の入ってくる方向、例えば外気に接する窓の下、壁面に設置すると効果的です。ただし、人の通る所や可燃物の近くには置かないでください。
- 交流100Vの電気コンセントの位置を考慮してください。また、コンセントは雨や水がかかたり、ほこりの多い場所には設置しないでください。
- 直射日光の当たる場所や温度の高い場所には設置しないでください。
- 理・美容院、メッキ、塗装工場、繊維関係工場などスプレーや化学薬品を利用する場所及びほこりの多い場所では使用しないでください。
- また温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。
- 灰掃除の際に灰が床に落ちることがありますので、別売の炉台(フロアプレート)を敷くなどしてください。
- 警告**、**注意**の項をご確認ください。

本体の据付け場所(可燃物の離隔距離)

総務省令第24号で定めている火災予防上安全な距離は、温風暖房機の場合、以下に示す基準となっています。

対象火気設備又は対象火気器具等の種別	離隔距離 (cm)			
	上方(A)	側方(B)	前方(C)	後方(D)
温風暖房機	100	60	100	60



■離隔距離の短縮について

火災予防上安全な距離として前記離隔距離が規定されておりますが、下記内容に基づき各自治体の消防長または消防署長の判断のもと離隔距離の短縮が可能になります。総務省令第24号第4条に基づく離隔距離の短縮

項目	内容(概要)
総務省令第24号 第4条、第19条	不燃材料で仕上げをした建築物等の部分の構造が耐火構造で、かつ主要な部分(間柱、下地など)を準不燃材で造ったもの。 又は 当該建築物の部分の構造が耐火構造以外の構造の場合は、主要な部分を不燃材で造ったもの(有効に遮熱できる場合)

火災予防条例に定める規定の他に、不燃材等を使用して火災予防上安全な距離(離隔距離)を超えて距離短縮等をおこなう等の消防署に判断が委ねられる内容については、個別に設置場所を管轄する消防署に確認していただくことが必要です。

■平成14年消防庁告示1号に基づく離隔距離の短縮

項目	内容(概要)
平成14年消防庁告示1号	周囲の壁の表面温度が100度を超えない距離や引火しない距離を確保する等の措置を講じれば離隔距離が短縮できること(室温条件あり条件)

弊社では上記規定に基づいて離隔距離の短縮を図る目安として、周囲の壁の表面温度が100℃未満となる距離として下記距離を確認しております。当該距離による設置適用に関しては消防署判断となるため設置場所を管轄する消防署の確認が必要です。

離隔距離 (cm)			
上 方(A)	側 方(B)	前 方(C)	後 方(D)
100cm以上	10cm以上	100cm以上	8 cm以上

※側方(B)についてはメンテナンススペースとして60cm以上設けるようにしてください。

3 給排気管およびトップ(別売)の取付け

■使用する工事部品は必ず弊社の純正別売品を使用してください。

設置に使用する部品の梱包内容

標準取付の場合⇒標準給排気トップ(直抜き)セット(別売)

標準取付 **梱包品一覧**

標準取付用トップ
壁貫通部材(直上用)
化粧板(φ150取付用)
ノンフラグビス 黒8本

屋内立上設置の場合⇒標準屋内立上セット(別売)

屋内立上設置 **梱包品一覧**

エルボ90°
エルボ45°
継付セキップ
T字棒(屋内用)
直管300
壁貫通部材(立上用)
直管600
ノンフラグビス 黒8本

屋外立上設置の場合⇒標準屋外立上セット(別売)

屋外立上設置 **梱包品一覧**

エルボ90°
エルボ45°
継付セキップ
T字棒(屋外用)
直管300
壁貫通部材(立上用)
直管600
壁貫通金具
ノンフラグビス 黒8本

給排気用トップの取出し場所の選定

- 警告**、**注意**の項をご確認ください。
 - 給排気用トップが閉そくされないよう積雪の多い地方では注意してください。排ガスを再度吸込んで不完全燃焼を起こすことがあります。
 - 給排気用トップは高温になります。人通りの多い所や、可燃物がある所や、可燃性ガスの発生する所には取り付けないでください。
 - 植木や愛がん動物は給排気用トップの出口より遠ざけてください。
 - 小さなお子さまがふれるような所には取り付けないでください。
 - ペレットを燃焼させるため、点火時や消火時に、白煙やにおい、煤が出る場合があります。出入口に近い所、また、外気が室内に入りやすい所には取り付けないでください。隣の家に、においが入ることは迷惑となりますので、避けてください。また、給排気用トップの吹き出し方向および上方に壁などがあると煤で汚れる場合がありますので避けてください。
 - 壁に穴をあける場合、壁の内部にあるすきい・電気配線・ガス・水道の配管などにふれない所を選んでください。
 - 高層建築の集合煙突を利用した給排気は、火災予防上危険ですから、絶対におこなわないでください。
- 給排気用トップの取出し場所の選定** が終わりましたら裏面へ進んでください。

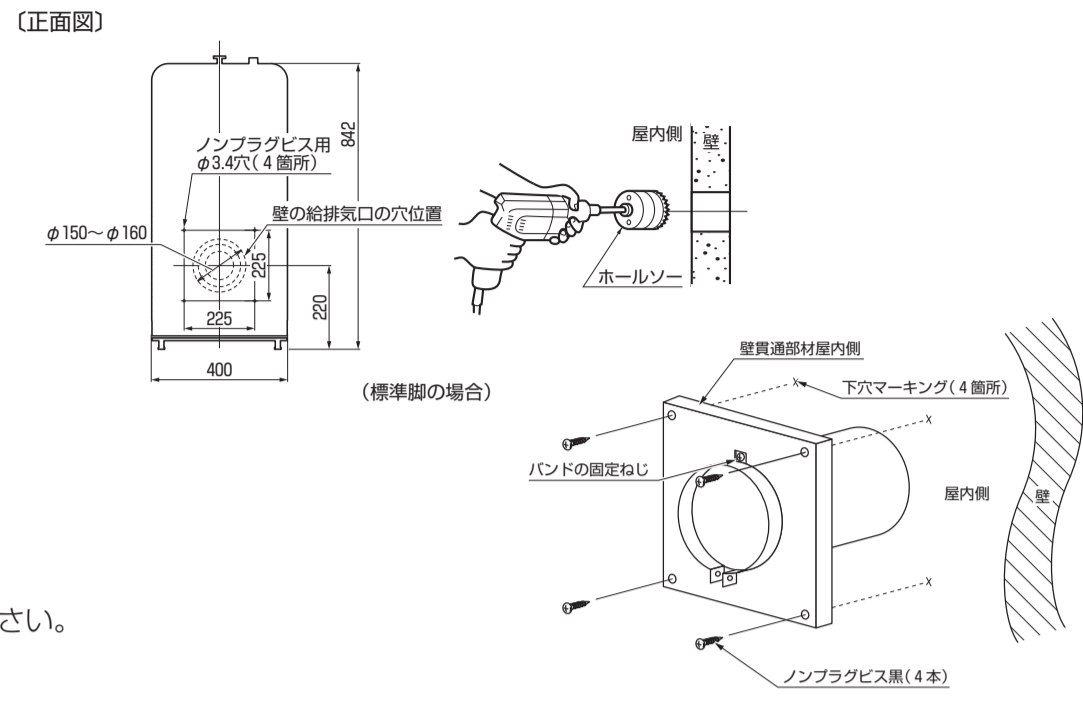
PE-6CT 給排気管直抜き取付用型紙

3 給排気管およびトップ(別売)の取付け(つづき)

壁貫通部材の取付け 全ての標準部材に共通

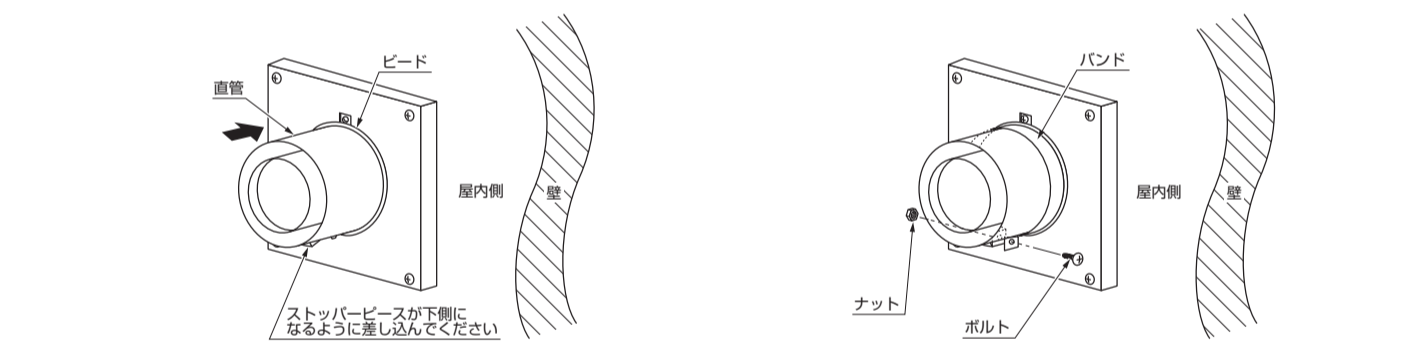
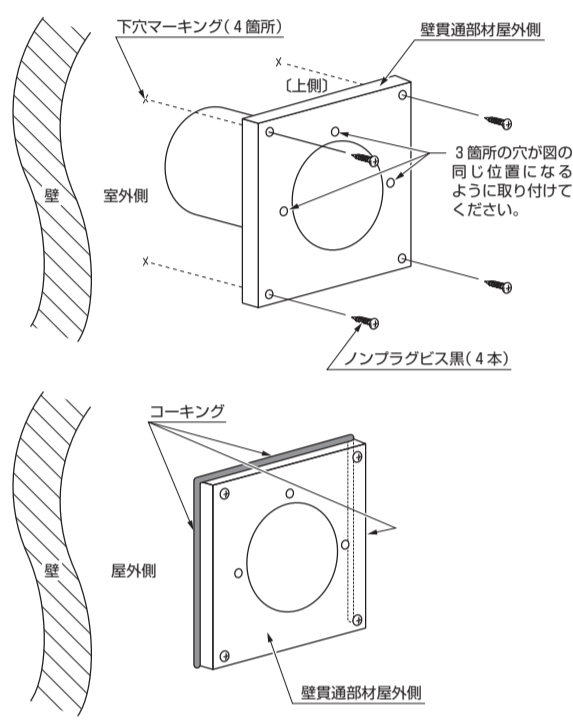
- お願い**
- 壁内の鉄筋・鉄骨・電気配線・水道の配管を充分考慮してください。
 - 標準セットの対応壁厚は110～200mmです。さらに別売部品を使用することで壁の厚さは450mmまで対応可能です。110mm未満、または200mm以上450mm以下の場合は弊社へご相談ください。
 - 取付けの際はケガをしないように手袋をはめておこなってください。

- ① 設置場所を決めてください。
- ② 給排気管を通す壁の穴位置を決めてください。
※標準給排気トップ(直抜き)セットおよび標準屋外立上セットで機器背面から直接背面側の壁穴を通す場合は、本紙工事説明書の型紙を使用して穴位置を決めてください。
- ③ 壁に壁貫通部材取付用の穴(φ150×φ160)を水平にあげてください。
- ④ (a)壁穴に壁貫通部材室内側を差し込み、壁穴の中心と合うように、また壁取付部材が水平になるように位置を合わせて固定ねじ位置4箇所にマーキングしてください。
(b)壁貫通部材室内側を取り出し、マーキングした位置に下穴(直径3.4mm)をあけてください。(4箇所)
※アンカープラグを使用する場合は、プラグに見合う穴をあけてください。
(c)バンドの固定ねじが上側になるように壁貫通部材室内側を壁穴に差し込み、セットに付属のノンブラグビス黒4本で壁に固定してください。

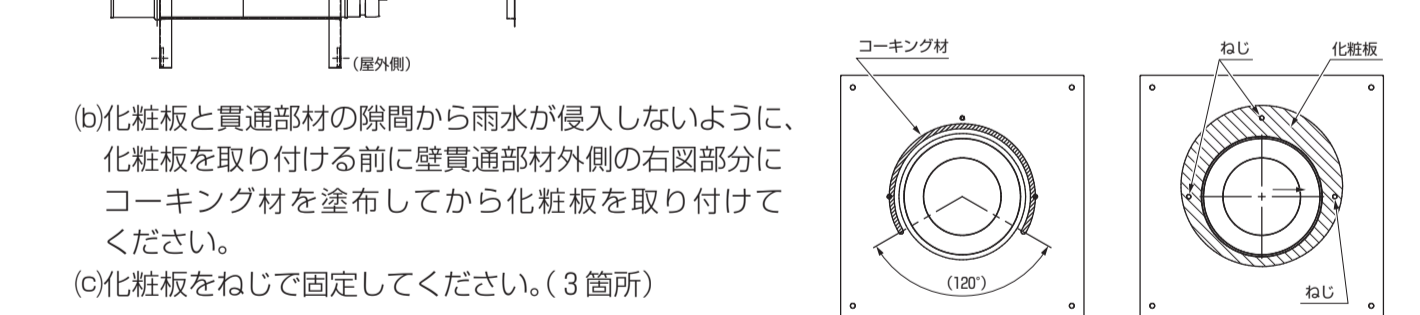
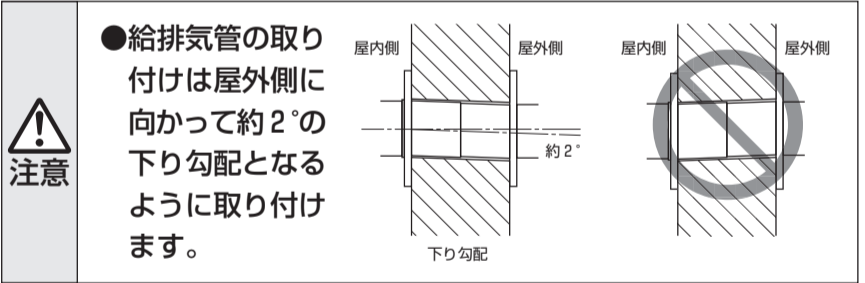


壁貫通部材の取付け 標準給排気トップ(直抜き)セットの場合

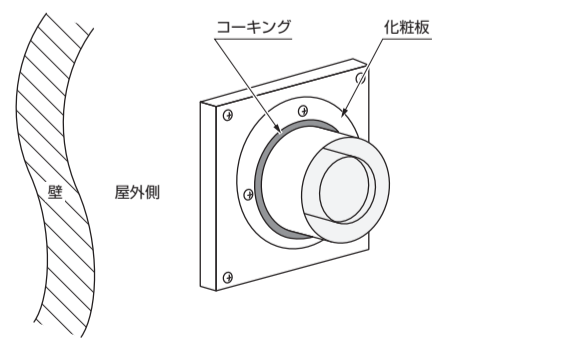
- ⑤ 屋外側の取付け(標準取付の場合)
(a)屋外側から壁貫通部材屋外側を差し込み、スリーブが壁貫通部材室内側のスリーブと重なるようにはめ込み、壁取付部材が水平となるようにして位置を合わせて固定ねじ位置4箇所にマーキングしてください。
(b)壁貫通部材屋外側を取り出し、マーキングした位置に下穴(直径3.4mm)をあけてください(4箇所)。
※アンカープラグを使用する場合は、プラグに見合う穴をあけてください。
※穴あけ部は雨水が浸入しないように処置してください。
(c)壁貫通部材屋外側を室外側から壁穴に差し込み、セットに付属のノンブラグビス黒4本などで壁に固定してください。
※中心部大径穴周辺の3箇所の穴が右図の位置になるように取付けてください。
- ⑥ 壁貫通部材のコーキング処理
屋外側に取付けた壁貫通部材屋外側は雨水が浸入しないように壁貫通部材屋外側の壁取付部材の上側・左右側面の3箇所をシリコン等でコーキングしてください。
- ⑦ 壁貫通部への直管取付
(a)壁貫通部材室内側に取り付いているバンドのボルトとナットを外します。
(b)セットに付属の直管を、屋内側から壁貫通部材の中心穴に通し、直管の付け根部ビードが当たる位置まで差し込みます。
(c)直管のビード外側を保持するように取付けてボルトで固定します。



- ⑧ 化粧板の取付け
(a)化粧板を屋外側から直管外周に差し込みます。
●給排気管の取付けは屋外側に向かって約2°の下り勾配となるように取付けます。
(b)化粧板と貫通部材の隙間から雨水が浸入しないように、化粧板を取り付ける前に壁貫通部材外側の右図部分にコーキング材を塗布してから化粧板を取り付けてください。
(c)化粧板をねじで固定してください。(3箇所)

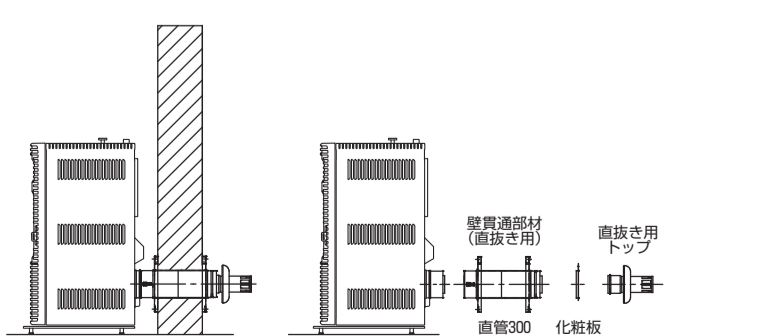


- ⑨ 直管と化粧板のコーキング処理
取付けた直管と化粧板の隙間は雨水が浸入しないようにシリコン等でコーキングしてください。



給排気用トップの取付け 標準給排気トップ(直抜き)セットの場合

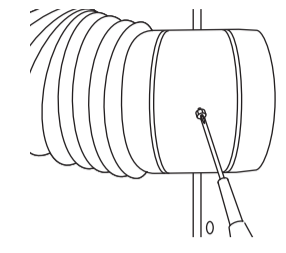
- ⑩ 直抜き用トップの取付け
直抜き用トップを差し込んでください。



3 給排気管およびトップ(別売)の取付け(つづき)

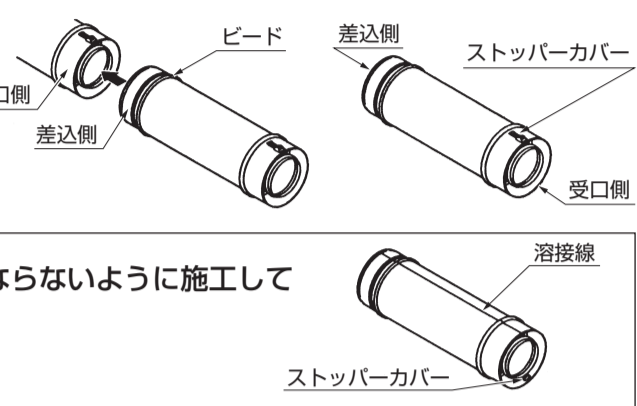
配管接続部の固定

- 機器本体と接続配管(1箇所)は配管が外れないようにねじで固定してください。
●本体と接続管
1本タッピンねじ(市販品)を打ち込んで管と固定します。
管端面よりおよそ10mmの位置に打ち込んでください。



接続配管(二重管)の取り付けかた・外しかた

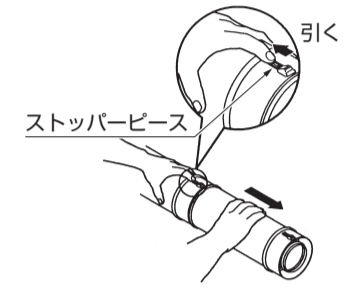
- 接続方法**
- ① 給排気管の差込側、受口側をよく確認してください。
 - ② 給排気管の差込側を、受口側端面が差込側ビードにあたるまでしっかりと差し込んでください。(差し込むだけで抜け防止機構が働きます。)



- 注意**
- 横向きに配管する際は、給排気管の溶接線が下側にならないように施工してください。
 - 接続後、容易に外れないことを確認してください。

取り外し方法

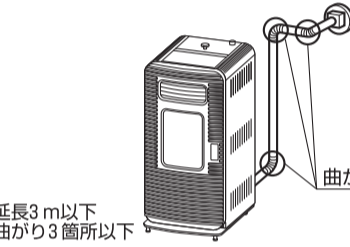
- 給排気管の受け口側のストッパーピースを引いた状態(抜け防止機構を解除)で給排気管をまっすぐ引き抜いてください。
(抜けにくい場合は、給排気管を回しながら引き抜いてください。)



- 注意**
- 給排気管が抜けにくい(抜け防止機構が解除されない)場合は、給排気管どうしを一旦奥まで差し込んでからストッパーピースを引いてください。

延長給排気工事の限界

- 延長工事部品は、必ず弊社純正品品を使用してください。
 - 給排気管の長さは3m以下、曲がりは3箇所以下にしてください。
 - 標準給排気セット以外におも部屋の条件によって、給排気管を延長して取り付けることができます。ただし、延長限界は3m以下で曲がり3箇所以下です。
- 集合煙突利用の禁止 高層建築の集合煙突を利用しての給排気は、火災予防上危険ですから、絶対におこなわないでください。



給排気管およびトップの再利用時の注意

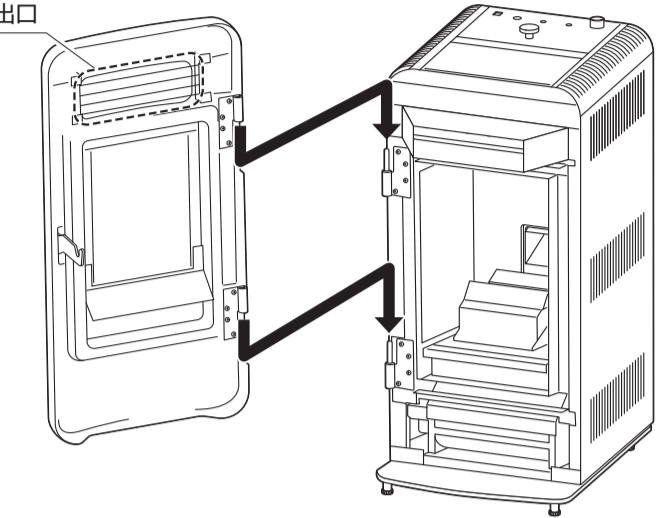
古い給排気管およびトップは使用しないでください。

4 燃焼室扉の取付け(つづき)

燃焼室扉の取付け(燃焼室扉は重量物です。取扱い時は注意してください。)

- お願い**
- 燃焼室を本体の軸へ差込む際は、上と下2箇所の差込みを同時におこなってください。
 - 燃焼室扉は、約35kgありますので、必ず二人以上で取付けをおこなってください。
 - 燃焼室扉にある温風吹出口は持たないでください。(ルーバーが変形するおそれがあります。)
 - 燃焼室扉を取付け後、必ず同梱の「指はさみガード」(2箇所)を取付けてください。

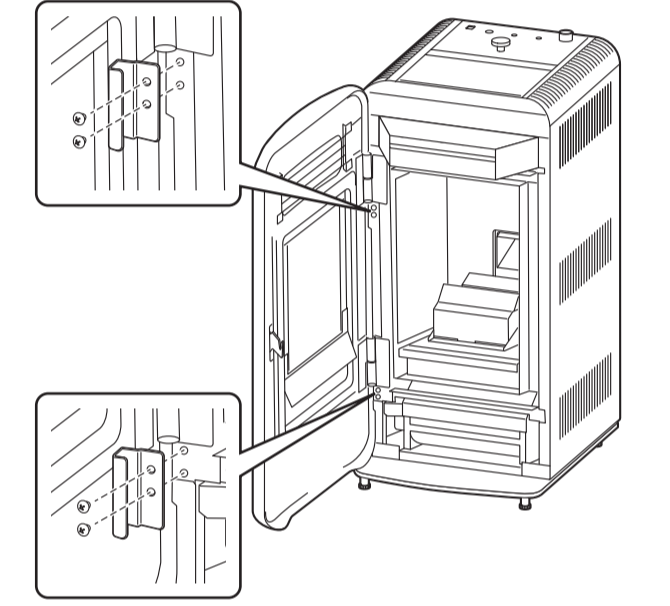
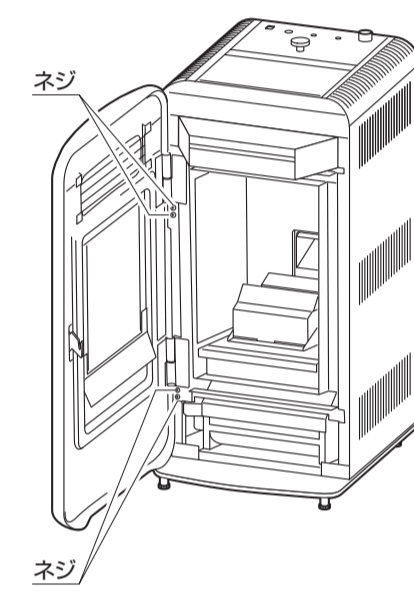
- 燃焼室扉をしっかり持って、本体の軸(2箇所)に 温風吹出口 燃焼室扉を差込んでください。



指はさみガードの取付け

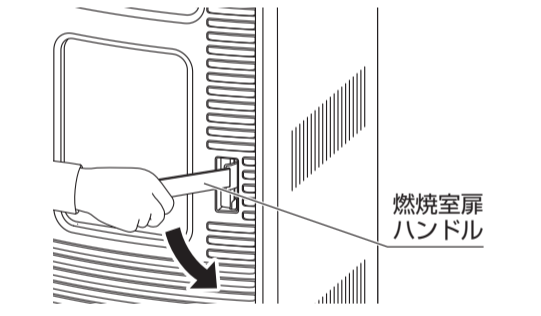
- 注意**
- 指はさみガードを必ず取り付けてください。
指はさみガードを取り付けしないと、燃焼室扉開閉時に指をはさみ込むおそれがあります。

- ① 燃焼室扉を約90°開けた状態にして、本体に仮止めをしてあるネジ4本(シルバー色)を取り外してください。(下図参照)
- ② ①で取り外したネジを使用して指はさみガードを取り付けてください。(2箇所)



燃焼室扉を閉める

- ① フックに燃焼室扉ハンドルを取り付けて、燃焼室扉をゆっくりと閉めてください。
- ② 燃焼室扉ハンドルを押し下げてロックしてください。



5 試運転

- 試運転は、ご使用者と一緒に必ずおこなってください。
試運転の準備
試運転用のペレット燃料を製品の燃料タンクへ投入してください。
※投入の際はタンク内の燃料吸込口付近へ入れてください。
●取扱説明書に従って、運転準備、運転、消火の手順の試運転をおこなってください。
※燃料タンク扉を開けたまま運転すると、しばらくしてエラー停止します。

- お願い**
- ストーブの据付け工事が終わりましたら、必ず試運転をおこない、使用者に運転方法はもちろんのこと、日常の点検・手入れの方法、定期点検、故障・異常時の処置方法、連絡先等をお教えます。
 - 同梱の「取扱説明書」と共に工事終了後はこの「工事説明書」をお客様にお渡しします。

6 火力の調整方法

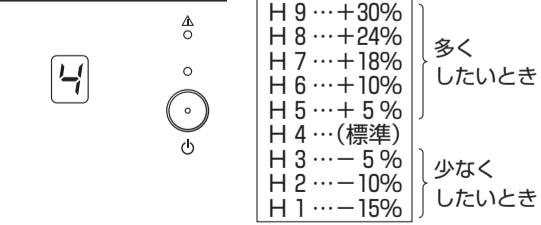
(設置条件やご使用燃料の種類によって、火力が大きくなったり、小さくなったりすることがあります。)
最大燃焼の炎が大きすぎたり、小さすぎたりする場合は以下の方法で火力を調整してください。

- 注意**
- 正しく調整されないと、過熱防止装置動作や消火の原因となる場合があります。

- ① 運転中に、ストーブ背面にある燃料供給量調整ボタンを10秒以上長押しする。操作部にあるデジタル表示部に「H」と「数字」が交互に表示されます。※初期設定値(標準)は「H4」です。以前に設定の変更をおこなっている場合は、現在の設定が表示されます。



- ② デジタル表示部に数字が表示中、燃料供給量調整ボタンを押す。燃料供給量調整ボタンを押すごとに、数字が4→5→6→7→8→9→1→2→3→4…の順に切り替わります。表を目安に設定を切替えたのち、必ず炎の状態を確認してください。これで設定の変更は終了です。操作終了の約1分後に表示が消えますが、炎の状態が良くない場合は再調整をおこなってください。



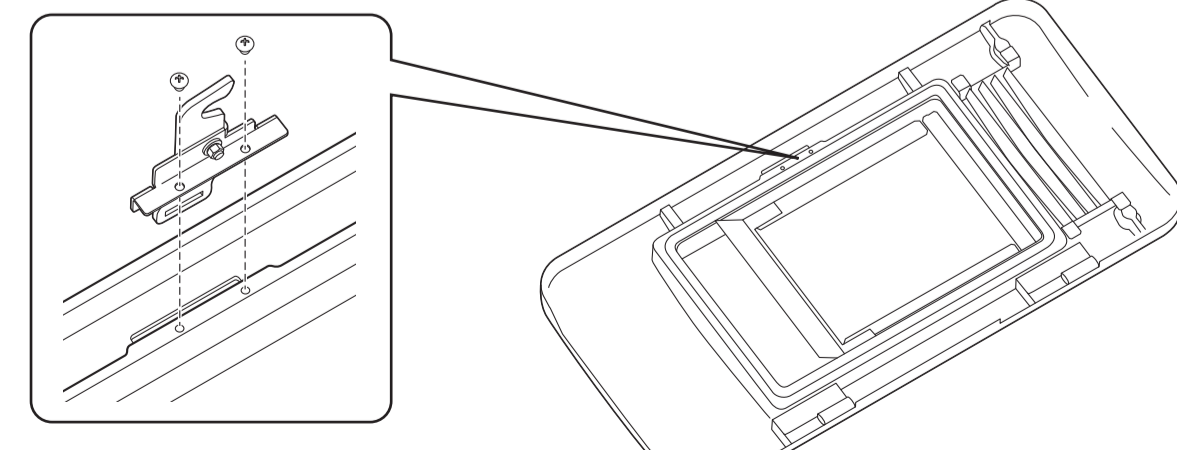
7 廃棄するときの注意

ストーブを廃棄するときには、必ず燃料タンクの燃料を抜いてください。リサイクルの支障となります。

4 燃焼室扉の取付け

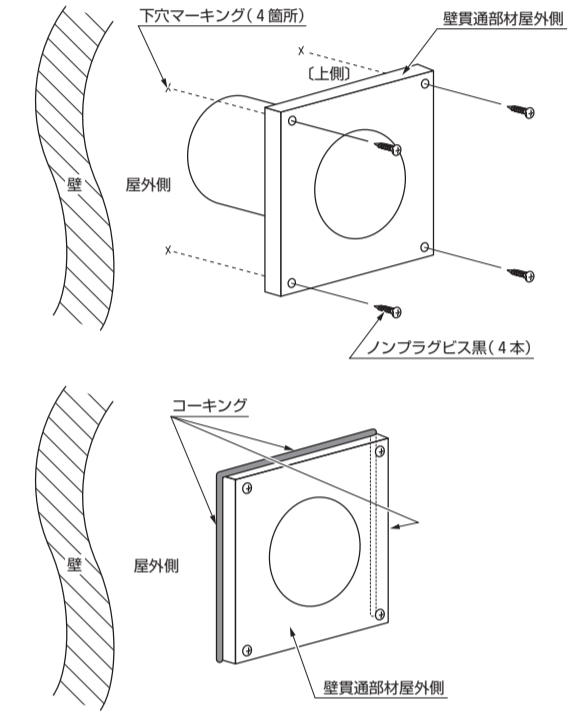
フックの取付け

フックをねじ2本で燃焼室扉にねじロック剤などを使用して、しっかりと固定してください。



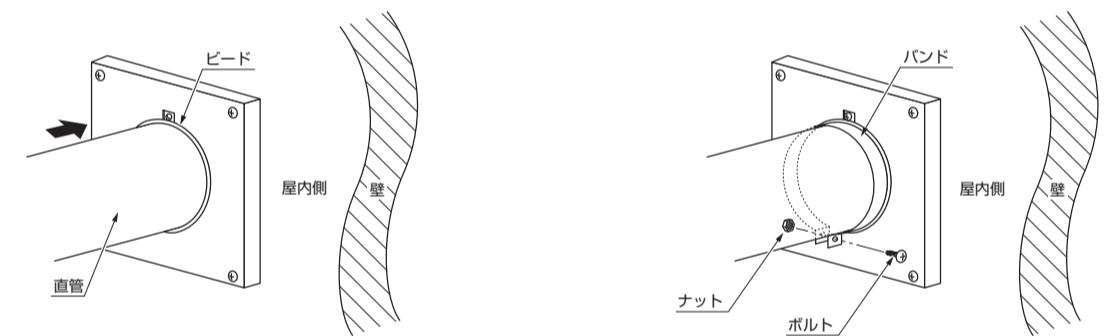
壁貫通部材の取付け 標準屋内立上セット・標準屋外立上セットの場合

- ⑤ 屋外側の取付け(立上設置の場合)
(a)屋外側から壁貫通部材屋外側を差し込み、スリーブが壁貫通部材室内側のスリーブと重なるようにはめ込み、壁取付け部材が水平となるようにして位置を合わせて固定ねじ位置4箇所にマーキングしてください。
(b)壁貫通部材屋外側を取り出し、マーキングした位置に下穴(直径3.4mm)をあけてください(4箇所)。
※アンカープラグを使用する場合は、プラグに見合う穴をあけてください。
※穴あけ部は雨水が浸入しないように処置してください。
(c)壁貫通部材屋外側を屋外側から壁穴に差し込み、セットに付属のノンブラグビス黒4本などで壁に固定してください。



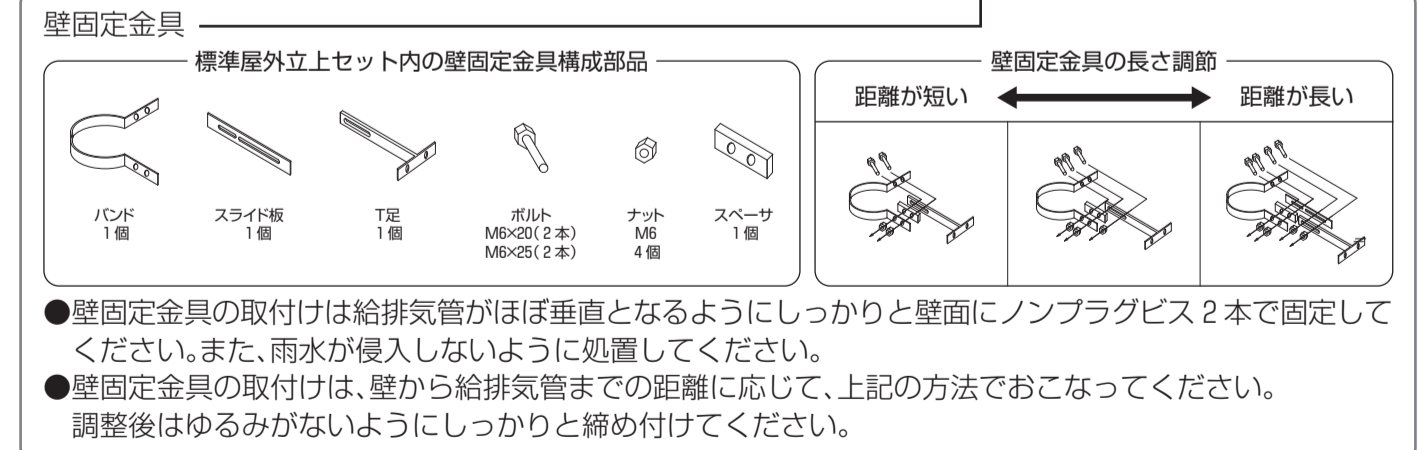
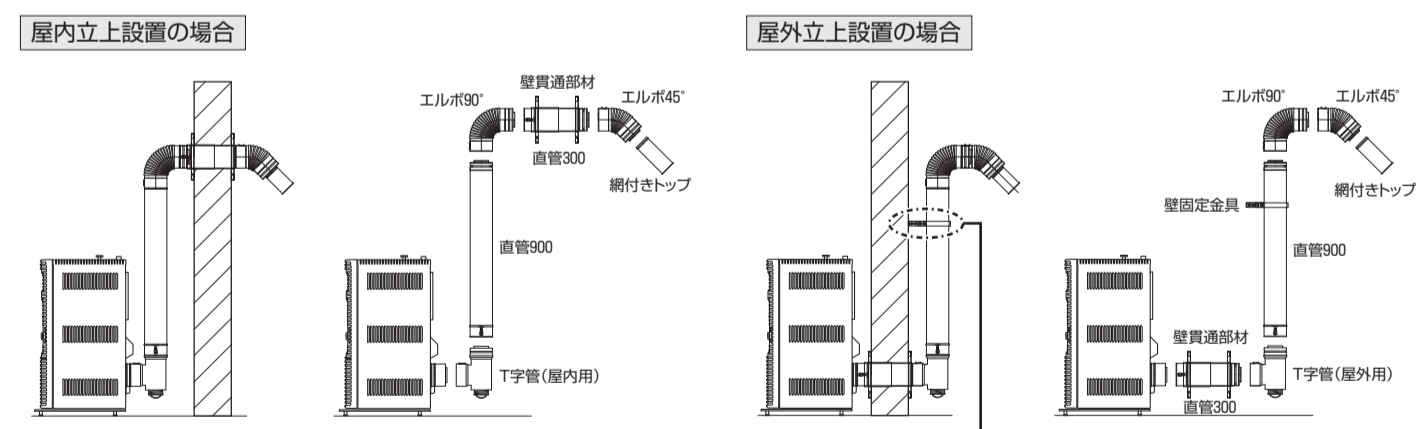
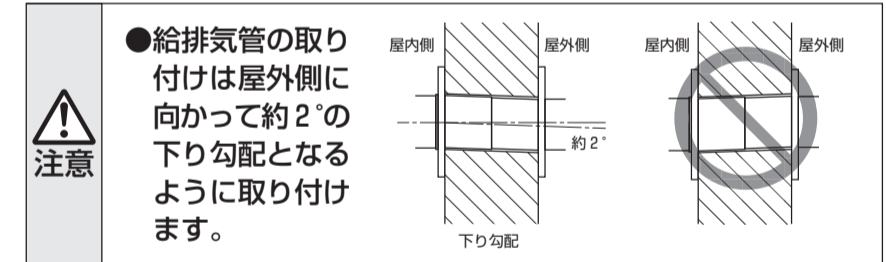
- ⑥ 壁貫通部材のコーキング処理
屋外側に取付けた壁貫通部材屋外側は雨水が浸入しないように壁貫通部材屋外側の壁取付部材の上側・左右側面の3箇所をシリコン等でコーキングしてください。

- ⑦ 壁貫通部への直管取付
(a)壁貫通部材室内側に取り付いているバンドのボルトとナットを外します。
(b)セットに付属の直管を、屋内側から壁貫通部材の中心穴に通し、直管の付け根部ビードが当たる位置まで差し込みます。
(c)直管のビード外側を保持するように取付けてボルトで固定します。



給排気管とトップの取付け 標準屋内立上セット・標準屋外立上セットの場合

- ⑧ 給排気管とトップの取付け
立上設置の場合は、下図のようにセット内の各部材を取り付けてください。
※各配管接続部は抜け止め機構が有効になる位置まで確実に差し込んでください。



- ⑨ 直管と壁貫通部材のコーキング処理
取付けた直管と壁貫通部材屋外側の隙間は雨水が浸入しないようにシリコン等でコーキングしてください。

